

# 薬用植物園の植物を利用した「雑草いけばな展」

蔵本技術部門  
研究開発支援グループ

今林 潔 (IMABAYASHI Kiyoshi)

## 1. はじめに

いけばなデザイン一溪会は大阪本部を軸に東京、四国、姫路に支部を置く団体であり、四国支部は徳島、香川の8教室を7名の師範で運営している。平成30年度の本学薬用植物園一般開放期間に来園された四国支部の高木一洋支部長から筆者に翌年の本園一般開放参加の申し出があり、本園で2度の企画打ち合わせ等から、本園の植物を利用した「雑草いけばな展」(図1)を開催する運びとなった。

## 2. 概要

期間：令和元年10月7日(月)～11日(金)

午前9時～午後5時

場所：徳島大学薬学部附属薬用植物園  
(徳島市)

主催：徳島大学薬学部附属薬用植物園



図1 「雑草いけばな展」の新聞記事

## 3. 内容

「雑草いけばな」とは、雑草の持つ生命力や自然の美しさを表現する生け花で、園内栽培

のエビスグサ(マメ科)の果実〔中の種子は生薬の“ケツメイシ”として用いられる他、“はぶ茶”としても使用される〕を上部に生けた作品(図2)など、多くの作品を展示した。また、開催期間中は高木氏より各作品について丁寧な解説があった(図3)。



図2 「雑草いけばな」作品



図3 近隣幼稚園児に作品解説をする高木氏

## 4. まとめ

「雑草いけばな展」には、身近な植物や乾燥させた植物の葉や花、枝等を用いて制作した「壁面花」という絵画調の珍しい作品も展示され、多くの来園者に楽しんでもらった。